

# 公共施設の役割と女性・高齢者等を考えた活性化の在り方

1170444 立花 真里

高知工科大学マネジメント学部

## 1. 概要

佐川町の地域活性化を取り上げる中で「あったかふれあいセンター」に焦点を当て、センターの機能がどのように活性化を実現するのか、そのあるべき方向性を明らかにするため施設マネジメントの検討を行った。また高齢者の幸せについても検討することで、少子高齢化社会におけるセンターの利用の在り方についても考察した。佐川町内2ヶ所にあるセンターを対象とし、利用者にインタビュー調査を第1回・第2回に分けて行った。その結果、先行研究である『生きがい・幸せのニーズと公共施設マネジメント』（平井、2016）で取り上げられた「木村会館」と「あったかふれあいセンター」計3ヶ所では、利用者の目的に差異があることが判明した。この違いを地方と地方・都市と地方に分け比較分析し、それぞれに違いが生じた原因を明らかにした。そして、各施設の地域特性を基に3つの変数を考え、求めるニーズの傾向を求めた。最後に、地域特性を考慮した施設マネジメントの在り方を提案した。

## 2. 背景

佐川町の地域活性化について取り上げる中で高知県中央西福祉保健所へのインターンシップにより、あったかふれあいセンターの存在を知った。高知県から介護に特化した施設への移行提案がある中で、佐川町のセンターは介護に特化した施設へ移行するつもりはないという見解を持っていた。高知県の移行提案はあくまで手段の一つであるがセンター側との考えの違いを実感し、センターの在り方について考察することにした。

## 3. リサーチクエスチョン

少子高齢化社会の中でみる活性化された状態とはどのような状態であるのか。佐川町の地域活性化を考える上で、あったかふれあいセンター(地図3-1)がどのような機能・役割を果たせるのか。

(地図3-1 ①：あったかふれあいセンターとかの及び②：あったかふれあいセンターひまわりの場所を示す)



## 4. 目的

福祉の視点による地域活性化を考え、福祉が地域活性化にどのように貢献できるのかを明らかにする。また、少子高齢化社会における福祉施設運営の在り方を提案し、センターの機能が地域の幸せとどう繋がっているのかを解明する。

## 5. 研究方法

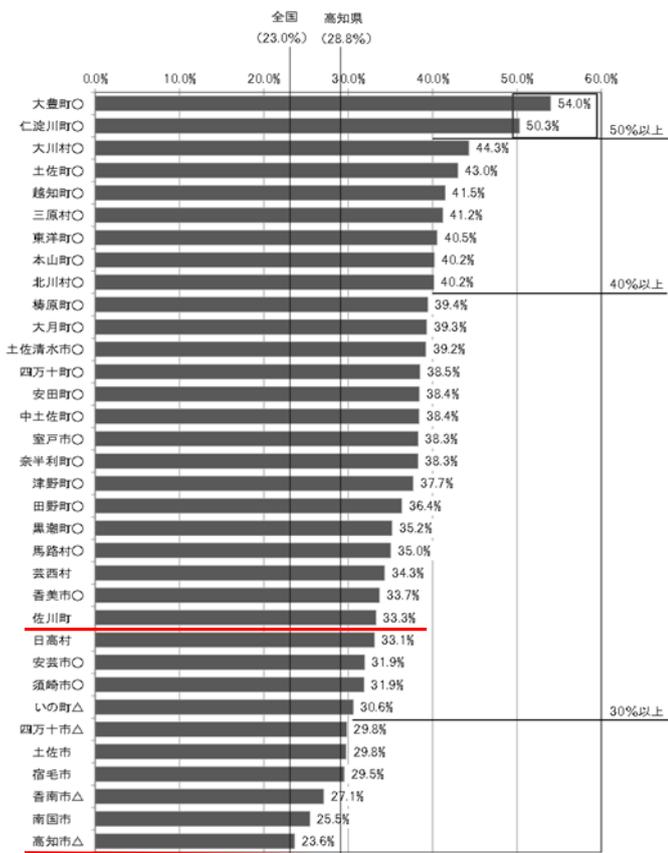
- ① 先行研究の概要、疑問点の整理を行う。
- ② 佐川町内にある2ヶ所のセンターにおける利用実績データ(対象期間：2015年10月の1ヶ月間)を基に対象者ごとの機能整理を行う。
- ③ 実際の利用者に対するインタビューを行い、利用目的・幸福及びどの機能を必要としているのかというニーズの把握をする。
- ④ ③を基に、木村会館を含めた施設間の比較分析を行う。
- ⑤ 各地域ニーズと背景及び属性の関係性分析を行い、メカニズムを解明する。
- ⑥ 地域特性による施設マネジメントの在り方を提言する。

## 6. 既往研究の概要

先行研究として『生きがい・幸せのニーズと公共施設マネジメント』を挙げている。この研究で取り上げられている「木村会館」を利用する高齢者は、「自分の存在意義」「健康」「社会とのつながり」を失いかけている人々であることから、この3つの要素を失わずに維持すること・保持を確認することが木村会館を利用する高齢者の幸せであるとしている。

また、農家の高齢者や過疎地域等に暮らす高齢者はみんな不幸だと考えているとは限らず、たった一人でも幸せに感じている可能性を説いている。<sup>1</sup>そこで、人口減少率が高く高齢者がより多い地方(※)の幸せの要因は木村会館とどのように異なるのか、といった点に疑問を抱いた。さらに利用者の目的のみならず、世帯構成も利用者の幸せの要素に何かしら影響を与えているのではないかと推測した。(※)地方として佐川町のデータを扱っている。

図 6-1 市町村別高齢化率(2010)<sup>2</sup>



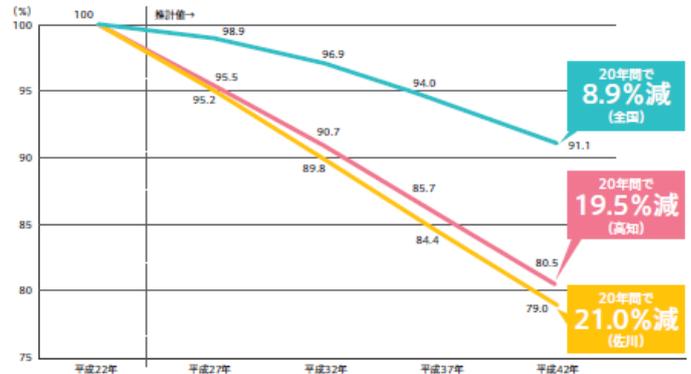
<sup>1</sup> 平井沙織 (2016.3) 『生きがい・幸せのニーズと公共施設マネジメント』 6頁,7頁

<sup>2</sup> 別冊 5 - 高知県(2010)13頁

※○：全域が過疎地域に該当する市町村

△：一部の地域が過疎地域に該当する市町村

図 6-2 総人口の将来推計の変化率(全国/高知/佐川 H22-H42)<sup>3</sup>



## 7. 分析

### 7.1 あったかふれあいセンターの概要

あったかふれあいセンターは制度サービスの隙間を埋め、子どもから高齢者まで年齢や障害の有無に関わらず1ヶ所で必要なサービスを受けられる、小規模多機能支援拠点である。現在高知県では、34市町村中29市町村で実施されており、市町村社協、企業、民生委員・児童委員、ボランティア、自治会等の官民協働による運営体制が敷かれている。

「集い」を基本に地域の実情に応じた機能を付加している。対象者ごとのサービス例としては以下に示す通りである。<sup>4</sup>

[高齢者]

- ・元気な高齢者や介護認定者の居場所
- ・生活に不安を感じる方や、閉じこもりがちな方の居場所
- ・介護サービスの補完

[子ども]

- ・学童保育を利用していない小学生の居場所
- ・放課後、長期休暇中の居場所

[障害者]

- ・日中の居場所
- ・社会参加
- ・就労支援

[その他]

- ・引きこもりがちな若者の居場所
- ・乳幼児を連れた母親の居場所

<sup>3</sup> こちら - チーム佐川(2016/4/1)22頁

<sup>4</sup> あったかふれあいセンターを取り巻く現状と事業計画書について(資料1)を基に筆者まとめ

7.2-1 情報収集の概要(利用者情報[とかの])<sup>5</sup>

図表 7-1 利用者の性別

性別	人数	割合
男性	83	36.1%
女性	147	63.9%
不明	0	0.0%
合計	230	100.0%

図表 7-2 利用者の年齢

年齢集計	人数	割合
子ども(0-19歳)	8	3.5%
成人(20-64歳)	46	20.0%
前期高齢者	68	29.6%
後期高齢者	97	42.2%
不明	11	4.8%
合計	230	100.0%

「あったかふれあいセンターとかの」は利用登録者 641 人に対し当該月の利用者は 230 人であり、利用率は 35.9%を記録している。男女比及び年齢を見ると、過半数が女性であり 71.8%が高齢者ということが読み取れる。

図表 7-3 利用者の世帯構成

世帯	人数	割合
独居	57	24.80%
→うち 高齢者	43	18.70%
高齢者夫婦のみ	85	37.00%
高齢者と子	26	11.30%
児童と両親	8	3.50%
児童とひとり親	0	0.00%
その他	16	7.00%
不明	38	16.50%
合計	230	100.00%

また上記の世帯構成から、独居であるか否かを問わず高齢者のみの世帯割合が 55.7%と過半数を占めていることが分かる。

<sup>5</sup> 高知県あったかふれあいセンター事業利用実績分析報告書【月報】とかをを基に筆者まとめ

7.2-2 情報収集の概要(利用者情報[ひまわり])<sup>6</sup>

図表 7-4 利用者の性別

性別	人数	割合
男性	14	17.1%
女性	68	82.9%
不明	0	0.0%
合計	82	100.0%

図表 7-5 利用者の年齢

年齢集計	人数	割合
子ども(0-19歳)	0	0.0%
成人(20-64歳)	2	2.4%
前期高齢者	9	11.0%
後期高齢者	63	76.8%
不明	8	9.8%
合計	82	100.0%

「あったかふれあいセンターひまわり」は利用登録者 331 人に対し当該月の利用者は 82 人であり、利用率は 24.8%を記録している。男女比及び年齢を見ると、とかのと同様に過半数が女性であり 87.8%が高齢者ということが読み取れる。またひまわりは子どもの利用者が 0 であるといった特徴もあり、とかのより利用世代の偏りが大きくなっている。

図表 7-6 利用者の世帯構成

世帯	人数	割合
独居	38	46.30%
→うち 高齢者	36	43.90%
高齢者夫婦のみ	28	34.10%
高齢者と子	7	8.50%
児童と両親	0	0.00%
児童とひとり親	0	0.00%
その他	1	1.20%
不明	8	9.80%
合計	82	100.00%

上記の世帯構成から、独居であるか否かを問わず高齢者のみの世帯割合が 78%と過半数を占めているが、「とかの」と比べその割合の差は顕著である。

<sup>6</sup> 高知県あったかふれあいセンター事業利用実績分析報告書【月報】ひまわりを基に筆者まとめ

### 7.3-1 機能と利用状況分析(機能別利用状況[とかの])<sup>7</sup>

図表 7-7 基本機能の利用状況

機能	人数	割合	回数	平均回数	最大回数	最小回数
集い	212	92.2%	726	3.42	20	1
見守り訪問	27	11.7%	50	1.85	5	1
相談	1	0.4%	1	1.00	1	1
つながぎ	8	3.5%	11	1.38	2	1
生活支援	5	2.2%	5	1.00	1	1
外出支援	8	3.5%	16	2.00	7	1
配食	0	0.0%	0		0	0
泊まり	0	0.0%	0		0	0
実人数	230	100.0%	809	3.52	20	1
のべ人数	261	113.5%				

とかの「集い」機能の利用者が大多数であり、割合にして90%を超える人が利用している。他の機能へ分散していないことが分かる。

### 7.3-2 機能と利用状況分析(機能別利用状況[ひまわり])<sup>8</sup>

図表 7-8 基本機能の利用状況

機能	人数	割合	回数	平均回数	最大回数	最小回数
集い	42	51.2%	148	3.52	11	1
見守り訪問	52	63.4%	79	1.52	5	1
相談	0	0.0%	0		0	0
つながぎ	2	2.4%	2	1	1	1
生活支援	41	50.0%	78	1.9	6	1
外出支援	0	0.0%	0		0	0
配食	0	0.0%	0		0	0
泊まり	0	0.0%	0		0	0
実人数	82	100.0%	307	3.74	11	1
のべ人数	137	167.1%				

一方で、ひまわりでは「集い」「見守り訪問」「生活支援」といった3つの機能の割合が高い。

<sup>7</sup> 高知県あったかふれあいセンター事業利用実績分析報告書【月報】とかのを基に筆者まとめ

<sup>8</sup> 高知県あったかふれあいセンター事業利用実績分析報告書【月報】ひまわりを基に筆者まとめ

このように同じ佐川町内のセンターであっても、地域ごとに年齢や利用されている機能の違いがあることが判明した。

### 7.4 比較対象施設分析

木村会館は高知市に位置しており、主なサービス内容として1F：風呂・電気治療器・囲碁部屋・集会所・ロビー、2F：図書館・調理室・教室、3F：ホールといったものが挙げられる。先行研究において実施された「木村会館の市民利用に関するアンケート調査」を基に利用者情報を整理した。

図表 7-9 木村会館利用者の性別及び年齢<sup>9</sup>

性別	人数	割合
男性	37	33%
女性	72	64%
不明	4	3%
合計	113	100%

年齢集計	人数	割合
子ども(0-19歳)	11	10%
成人(20-64歳)	33	29%
前期高齢者	40	36%
後期高齢者	23	20%
不明	6	5%
合計	113	100%

1家庭で複数利用している人もいるため実質80世帯であり、そのうち8人は独居者という結果が出た。男女比率は2:6となっている。独居者8人のうち6人は高齢者であり、男女比率は2:4であった。また夫婦のみ世帯は39(重複なしだと31)で、うち高齢者夫婦は28(重複なしだと21)を占めていた。

## 8. インタビュー調査

### 8.1 インタビュー調査1(とかの)

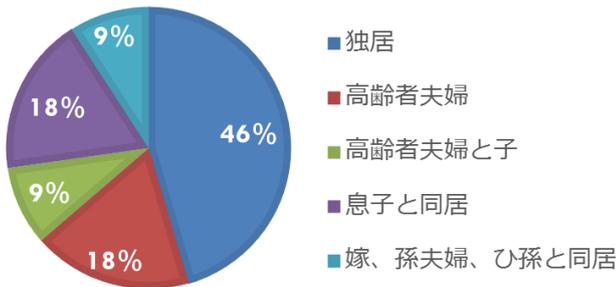
2016/10/17に実施したインタビューの質問内容は以下の

<sup>9</sup> 平井沙織(2016.3)『生きがい・幸せのニーズと公共施設マネジメント』1頁 / 「木村会館の市民利用に関するアンケート調査」を基に筆者作成

通りである。

1. 年齢 2. 何を目的として来ているか  
 3. 仕事をしているか否か(趣味含む) 4. 同居者はいるのか  
 男性2人・女性9人に質問した結果、年齢層は88, 86[2人], 85, 82, 80代[3人], 76[2人], 70代と高齢者のみであった。

図表 8-1 世帯構成(筆者作成)



年齢より、独居者は全員高齢者であり高齢者のみで暮らしている世帯は64%に上る。独居者と誰かと同居している人とを比較すると、5:6とおよそ半数ずつである結果が出た。

また、集う目的としては「特になし」と回答した人を除くと「会う、話すため[9人]」「将棋[1人]」といった声が挙げられた。多くの人はセンターにつながりを求めて訪れていることが分かる。以下に示すのは、利用者が行っている仕事・趣味である。「・」は1人ごとの回答である。

- ・カラオケ(歌) ・花作り、畑仕事 ・畑仕事[5人]
- ・畑仕事、田んぼ(加工品を出品している)
- ・宿泊、バーベキュー、発表会、サロン
- ・お茶教室の先生をしている ・特になし

多くの人が何かしら仕事・趣味を行っており、中でも畑仕事は7人といった高い割合を示している。

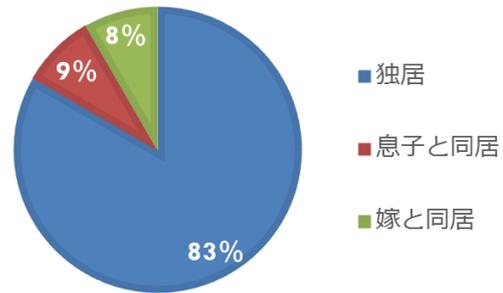
## 8.2 インタビュー調査1(ひまわり)

2016/10/21 に実施したインタビューの質問内容は以下の通りである。

1. 年齢 2. 何を目的として来ているか  
 3. 仕事をしているか否か(趣味含む) 4. 同居者はいるのか

男性1人・女性11人に質問した結果、年齢層は93, 92, 91, 87[3人], 84[2人], 82, 80, 75, 73でありとかのと同様高齢者のみであるが、90代の方も利用されていることが分かった。

図表 8-2 世帯構成(筆者作成)



ひまわりは12人中10人が独居者であり、高齢者のみで暮らしている世帯は83%に上る。独居者と誰かと同居している人とを比較すると、10:2とあからさまに偏った結果が出た。

また、集う目的としては「元気、健康のため[4人]」「会う、話す、情報収集のため[7人]」「イベント(催し)[1人]」といった声が挙げられた。とかのと同様センターにつながりを求める人もいる中、元気と健康のために訪れるといった新しい声が挙がった。以下に示すのは、利用者が行っている仕事・趣味である。「・」は1人ごとの回答である。

- ・カラオケ(歌) ・外出、歌 ・畑仕事 [3人]
- ・畑仕事、花作り、家事全般、栗拾い、散歩、裁縫
- ・家事全般、畑仕事、お茶栽培、散歩、友人と話す、親戚と外出
- ・畑仕事、花作り(草引き)、料理
- ・畑仕事、花作り(草引き)、裁縫、料理等
- ・犬のお世話、畑仕事、散歩、おいしい物を食べる事(食事)、料理
- ・畑仕事、家事全般(料理・洗濯・掃除)、散歩
- ・読書、お花等多種多様

全員が仕事・趣味を行っており、畑仕事の他、家事をする人も見受けられた。

## 8.3 インタビュー調査1を踏まえた比較分析

図表 8-3 3施設比較 -性別及び年齢-(筆者作成)

高知市(木村会館)	113名	佐川町(とかの)	11名	佐川町(ひまわり)	12名
男:女=37:72 →うち4名不明		男:女=2:9		男:女=1:11	
0-19歳	11人	0-19歳	-	0-19歳	-
20代	1人	20代	-	20代	-
30代	5人	30代	-	30代	-
40代	9人	40代	-	40代	-
50-64歳	18人	50-64歳	-	50-64歳	-
前期高齢者	40人	前期高齢者	-	前期高齢者	1人
後期高齢者	23人	後期高齢者	11人	後期高齢者	11人
不明	6人	不明	-	不明	-

調査人数は施設の規模等の影響もあり均等になっていないが、どの施設も女性利用者及び高齢者が数多くいるという結果となった。木村会館は幅広い年齢層が利用していることが読み取れる。また、独居率は木村会館[10%※]<とかの[46%]<ひまわり[83%]の順に割合が増えている。ひまわりの独居者の多さは顕著である。

※実質世帯 8/80 = 10%

図表 8-4 3施設比較 -仕事・趣味-(筆者作成)

木村会館		とかの	
○男性	○女性	○男性	○女性
カラオケ教室 1	カラオケ教室 7	畑仕事、田 2	畑仕事、田 5
歌謡舞踊 1	歌謡舞踊 4		カラオケ 1
雄弘ヨーガ 1	雄弘ヨーガ 5		花作り 1
歴史講座 1	歴史講座 4		お茶教室 1
その他 6	その他 12		宿泊等 1
	ピラテス 5		特になし 1
	ちぎり絵教室 1		
	手編み 2		
	「かな」と生活の書 1		
	フラダンス初心者教室 1		
	写真教室 2		
	焼き物教室 3		
	3Bリフレッシュ体操 3		
	ペン字講座 1		
	洋裁 2		
○不明			
カラオケ教室 1			
3Bリフレッシュ体操 1			
その他 1			
<b>ひまわり</b>			
○男性	○女性		
畑仕事、田 1	畑仕事、田 8		
家事全般 1	家事全般 5		
散歩 1	散歩 3		
	カラオケ 2		
	花作り 4		
	裁縫 2		
	食事 1		
	読書 1		
	友人と話す 1		
	外出 2		
	犬のお世話 1		
	粟拾い 1		

上図は利用者が行っている仕事・趣味の比較である。赤色の枠は各施設の男女共通部分を表している。木村会館は館内でサービスを提供している分、男女それぞれが共通して行っていることが多くなったと推測できる。次に青色文字で表した部分は、各施設男女別で最も高い数値であったものである。とかの・ひまわりは地方に位置していることもあり、男女とも「畑仕事・田」で高い数値が出ている。最後に赤色文字で表した部分は、各施設で共通していた項目となっている。

## 9. 再インタビュー調査

### 9.1 インタビュー調査1で不足していた情報

インタビュー調査1をまとめる中で、独居ではないが1人でセンターを利用する高齢者が数多く見られた。なぜ他の同

居者は利用しないのか。その理由がセンターに求められるニーズにつながるのではないかと考え、「家族構成及び状況」を加えて聞くこととした。

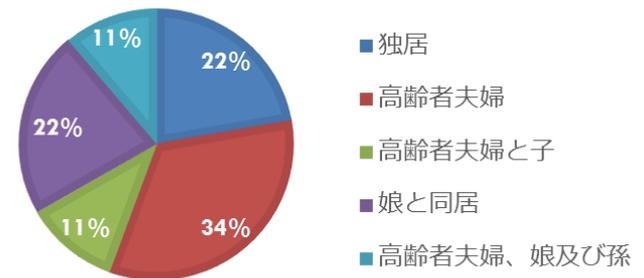
### 9.2 インタビュー調査2(とかの)

2016/11/15に実施したインタビューの質問内容は以下の通りである。

1. 年齢 2. 何を目的として来ているか
3. 仕事をしているか否か(趣味含む)
4. 家族構成及び状況(センターに来ない理由)

男性1人・女性8人に質問した結果、年齢層は83[4人]、82[5人]と高齢者のみであった。

図表 9-1 世帯構成(筆者作成)



インタビュー調査1より高齢者のみの世帯割合は減少したものの、いずれにしる過半数を超えていることが分かる。独居者と誰かと同居している人とを比較すると、2:7となり独居世帯が少ない割合を示す結果となった。独居原因としては「子と一緒に住んでいないから」といった回答があった。

センターに来ない理由としては以下の通りである。

- ・家でテレビを見ているから
- ・他界しているから
- ・仕事でいないから
- ・一緒に住んでいないから
- ・そういった場が好きではないから
- ・身体障害があるから

また、集う目的としては「会う、話すため[9人]」といった声のみが挙がった。全ての人がセンターにつながりを求めて訪れている。以下に示すのは、利用者が行っている仕事・趣味である。

- ・編み物、カラオケ(歌)
- ・畑仕事、家事全般
- ・畑仕事[3人]
- ・家事、買い物、犬のお世話
- ・特になし[3人]

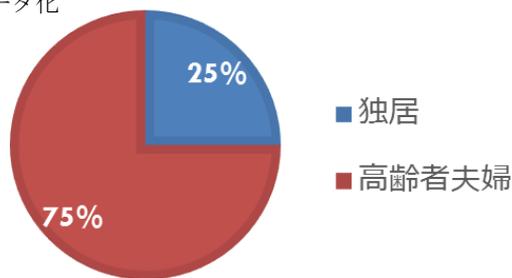
利用者の方々とインタビューを通し対話する中では足や腰を痛めているといった声もあった。つまりは仕事・趣味をしたくても身体的にできる状態にない利用者も存在し、「特になし」と回答した原因の1つと考えられる。

### 9.3 インタビュー調査2(ひまわり)

2016/11/11 に実施したインタビューの質問内容は以下の通りである。

1. 年齢
2. 何を目的として来ているか
3. 仕事をしているか否か(趣味含む)
4. 家族構成及び状況(センターに来ない理由)

男性1人・女性9人に質問した結果、年齢層は91, 88, 87[2人], 85, 84[2人], 82, 81, 73と高齢者のみであった。このうちインタビュー調査1と被る利用者を除くと、男女比は1:3で年齢層は88, 85, 84, 81という結果となった。図表9-2 世帯構成(筆者作成) ※新たなインタビューのみデータ化



ひまわりは4人中1人が独居者であり、4人全員高齢者のみで暮らしている。独居原因としては「子と一緒に住んでいないから」「配偶者が他界しているから」「施設に入っているから」といった回答があった。独居原因と被る意見も含まれるが、センターに来ない理由としては以下の通りである。

- ・他界しているから
- ・認知症だから
- ・病院に行っているから
- ・施設に入っているから
- ・仕事でいない⇨一緒に住んでいない⇨県外に出ているから
- ・女性ばかりだから

また、集う目的としては未回答及び特になしと回答した人を除き「会う、話すため[2人]」といった声が挙がった。以下に示すのは、利用者が行っている仕事・趣味である。

- ・機織、折り紙教室
- ・花作り、畑仕事
- ・苔球作り

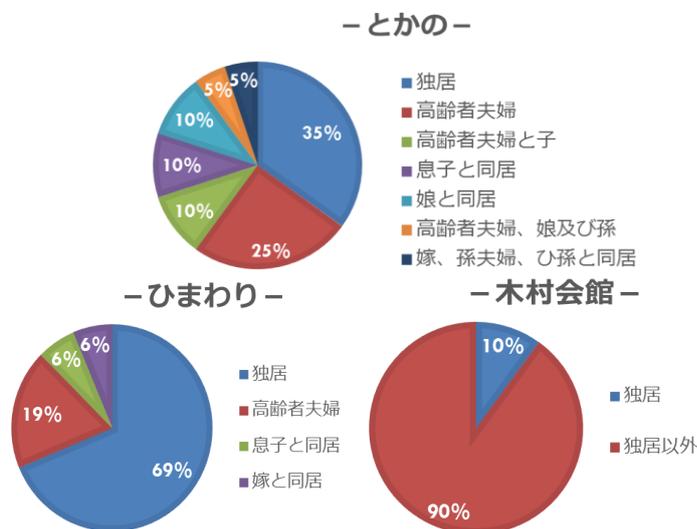
### 9.4 インタビュー調査1,2を踏まえた比較分析

図表9-3 3施設比較 -性別及び年齢-(筆者作成)

高知市(木村会館)	113名	佐川町(とかの)	20名	佐川町(ひまわり)	16名
男:女=37:72 →うち4名不明		男:女=3:17		男:女=2:14	
0-19歳	11人	0-19歳	-	0-19歳	-
20代	1人	20代	-	20代	-
30代	5人	30代	-	30代	-
40代	9人	40代	-	40代	-
50-64歳	18人	50-64歳	-	50-64歳	-
前期高齢者	40人	前期高齢者	-	前期高齢者	1人
後期高齢者	23人	後期高齢者	20人	後期高齢者	15人
不明	6人	不明	-	不明	-

インタビュー調査1,2の調査人数を合算すると上記の表の通りとなる。どの施設も女性利用者及び高齢者が数多くいるという結果だが、木村会館は他2施設に比べ均等が取れているといえる。

図表9-4 3施設比較 -世帯構成-(筆者作成)



また、独居率は木村会館[10%]<とかの[35%]<ひまわり[69%]の順に割合が増えている。先行研究のアンケート調査より、木村会館の詳しい世帯構成を推測するのは困難であったため独居であるか否かを表した。同じ地方同士で比較しても、ひまわりは際立って独居者が多いことが分かった。

図表9-5 3施設比較 -仕事・趣味-(筆者作成)

木村会館		とかの	
○男性	○女性	○男性	○女性
カラオケ教室 1	カラオケ教室 7	畑仕事、田 3	畑仕事、田 8
歌謡舞踊 1	歌謡舞踊 4	カラオケ 2	花作り 1
雄弘ヨーガ 1	雄弘ヨーガ 5	お茶教室 1	宿泊等 1
歴史講座 1	歴史講座 4	特になし 4	編み物 1
その他 6	その他 12	家事全般 2	買い物 1
	ピラテス 5	犬のお世話 1	
	ちぎり絵教室 1		
	手編み 2		
○不明			
カラオケ教室 1			
3Bリフレッシュ体操 1	「かな」と生活の書 1		
その他 1	フラダンス初心者教室 1		
	写真教室 2		
	焼き物教室 3		
	3Bリフレッシュ体操 3		
	ペン字講座 1		
	洋裁 2		

## ひまわり

[木村会館]

○男性	○女性
畑仕事、田 1	畑仕事、田 9
家事全般 1	家事全般 5
散歩 1	散歩 3
苔球作り 1	カラオケ 2
	花作り 5
	裁縫 2
	食事 1
	読書 1
	友人と話す 1
	外出 2
	犬のお世話 1
	栗拾い 1
	機織(はたおり) 1
	折り紙教室 1

利用者が館内で行っていること  
 [とかの・ひまわり]  
 利用者が施設外で行っていること

インタビュー調査2を経て、とかのでは「編み物」「家事全般」「買い物」「犬のお世話」、ひまわりでは「機織」「折り紙教室」「苔球作り」といった項目が新たに加わった。赤色枠の各施設男女共通部分は、「畑仕事、田」の人数が増加したのみで該当項目に変化はない。青色文字で表した各施設男女別の最高値と、赤色文字で表した各施設共通項目ともに変化はなかった。

## 10. インタビュー総合結果を踏まえた比較分析

### 10.1 センターを利用する高齢者の特徴

以下に示す表は、6で述べた3要素を基に各施設に当てはまるかどうかを分類したものである。なお、◎は各施設共通要素である。

図10-1 各施設に集う高齢者の目的(筆者作成)

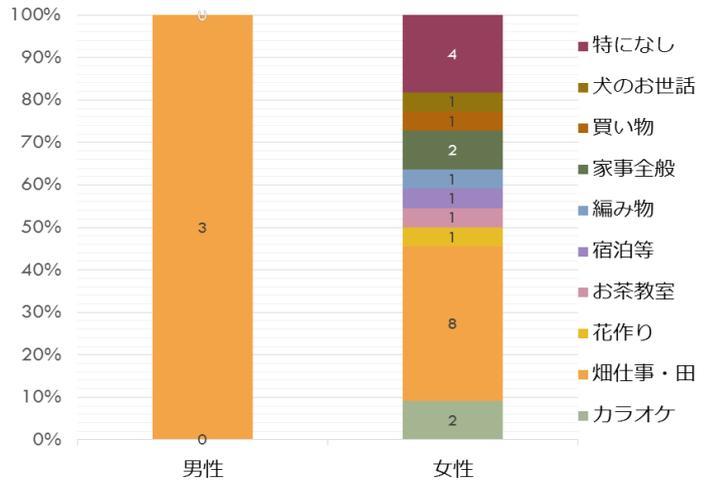
	木村会館	とかの	ひまわり
つながり	◎	◎	◎
健康維持	○	×	○
自己実現	○	×	×

とかのは「つながり18人」、ひまわりは「つながり9人」

「健康維持4人」が該当していた。私はとかの・ひまわりにおいても自己実現は○になると予測していた。なぜなら、センターに集うことにより自身の存在意義の確認もできると考察していたからである。しかし、実際にとかの・ひまわりを分析すると自己実現に該当する回答は見受けられなかった。なぜそういった結果になったのか、①男女比率 ②独居率 ③仕事・趣味の有無といった3つの変数を基にして施設ごとに見ていきたい。

図表10-2 男女別仕事・趣味の割合【とかの】

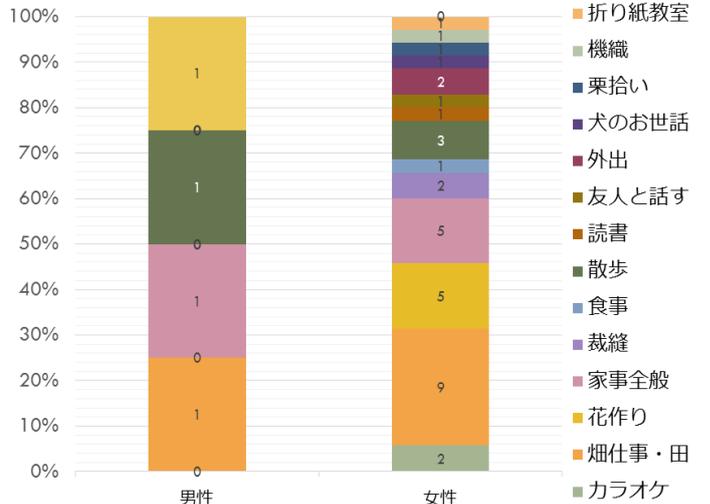
※「宿泊、バーベキュー、発表会、サロン」→宿泊等と表記



まずとかのは、①男性利用者割合が3/20=15%と20%をきっており、男性利用者は少ないことが伺える。よって、男女比率に偏りがある。②図表9-4より、世帯構成はまばらに分かれているため独居率はひまわりに比べ低い。同居者がいる利用者は、その時点で健康確認ができセンターに「健康維持」の要素を求めることはない。しかし、家族とのつながりしか保持していないので社会との「つながり」を求めてセンターに来る。③上図より、男性と女性で項目の差はあるものの多くの利用者が仕事・趣味を持っている。自分の存在意義となる仕事がある故に「自己実現」を求めることはない。これらの理由より、とかのは「つながり：○、健康維持：×、自己実現：×」になったと考察できる。

図表10-3 男女別仕事・趣味の割合【ひまわり】

※「親戚と外出」→外出、「料理」→家事全般、「歌」→カラオケとしてカウントしている。



次にひまわりは、①男性利用者割合が  $2/16=12.5\%$  と  $20\%$  をきっており、男性利用者割合が最も低い。よって、男女比率に偏りがある。②図表 9-4 より、世帯構成は独居が  $70\%$  近くの割合を記録しており、他施設とその差は著しい。家で 1 人の独居者は、健康確認することができないためセンターに「健康維持」の要素を求めている。また、家族とのつながりも持っていないことから社会との「つながり」を求めてセンターに来る。③上図より、男性と女性で項目の差はあるが多くの利用者が仕事・趣味を持っている。自分の存在意義となる仕事がある故に「自己実現」を求めることはない。これらの理由より、ひまわりは「つながり：○、健康維持：○、自己実現：×」になったと考察できる。

最後に木村会館は、①男性利用者割合が  $37/113 \approx 32.7\%$  と他 2 施設と比べ男性利用者割合が最も高い。一見偏っているが、3 施設の中では男女比率の偏りが小さい。②図表 9-4 より独居率は  $10\%$  を最も低いが、図表 7-9 より高齢者は  $55\%$  を超えている。都市部の施設は多人数の高齢者が対象となっており、独居率に関わりなく高齢者が多い。つまりは、独居率は低くても都市部であるため独居者数は多いということである。よって、木村会館利用者は「健康維持」の要素を求めている。また、つながりもないため社会との「つながり」を求めて施設を訪れる。③木村会館は施設内で提供しているサービスが多いことから、そのために足を運ぶ利用者も多い。よって、施設外では仕事となるものを持っていないと推測できる。自分の存在意義となるものを求めて施設に来るため「自己実現」を求めているといえる。これらの理由より、木村会館は「つながり：○、健康維持：○、自己実現：○」になったと考察できる。

## 10.2 2 地域性(地方と地方)

同じ佐川町内のセンターであってもとのかのでは 1 要素、ひまわりでは 2 要素と当てはまる要素に違いがある。高齢化が進む地方でも、求める要素の背景には地域性があることが分かる。双方の施設は①男女比率に偏りが見られ、③利用者の多くが仕事・趣味を持っているといった 2 点で共通している。よって、求める要素の違いが表れた原因は②独居率によるものだと推測できる。独居率が低いと「健康維持」を求めず、独居率が高いと「健康維持」を求める傾向があることが

判明した。

## 10.3 3 地域性(都市と地方)

木村会館対とのかの・ひまわりでみたときの大きな違いは、「自己実現」を求めるか否かだ。これは③仕事・趣味の有無と①男女比率が影響を与えたのではないかと考えられる。まず、木村会館利用者は仕事・趣味がない故にそれを求めて施設を訪れる。そして、自分の存在意義となるものを施設内で見出しているのだ。とのかの・ひまわりの利用者は、施設外で仕事・趣味を持っているため施設内に自己実現を求めることはない。木村会館と同様に施設内でより多くのサービスを提供すると、とのかの・ひまわりの利用者も自己実現を求めることが予想される。また男女別でみると、どの施設も女性に比べ男性は仕事・趣味を持っていない。よって、自己実現をより求めて施設を訪れるのは男性であると考えられる。3 施設の中でも都市に位置する木村会館は、男性利用者割合が高いため自己実現要素を求めている。

以上をまとめると、仕事・趣味が無い場合また男性利用者割合が高い場合、「自己実現」を求める傾向があることが分かった。

## 11.1. 高齢化社会におけるセンターの役割

### 11.1 求められる役割の在り方

地域特性により、どの様に変数に変化するかについて要点をまとめると、変数①(男女比率)では、木村会館は都市部なのでリタイアして仕事を持っていない男性が多く、一方で「とのかの」・「ひまわり」は高齢化が進んだ地方で長寿命の女性が数多いことが挙げられる。変数②(独居率)では、都市部の木村会館では独居率は低いが高齢者数は多く、「とのかの」は若者も居住していることから世帯構成が多様である。一方、「ひまわり」は同じ地方でも高齢化が進んでいることから、男性の伴侶を持たない女性高齢者を中心に独居率が際立って高い。変数③(仕事の有無)では、都市部の木村会館は特に男性が退職後することがない状態であり、「とのかの」・「ひまわり」では農業などの仕事や趣味を持っている比率が高い結果となった。これらの要点を簡単に表すと、次のようになる。

	木村会館	とかの	ひまわり
① 男女比率	○	×	×
② 独居率(者)	○	×	○
③ 仕事の有無	×	○	○

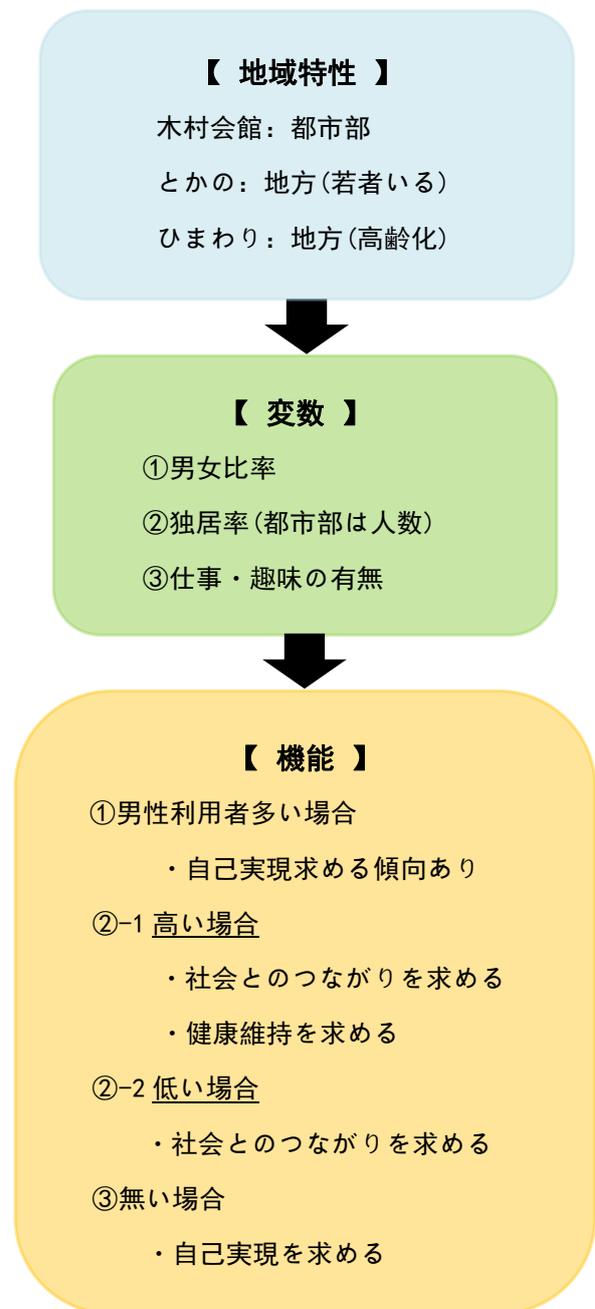
※なお、①に関しては男女の偏りが小さい場合を○、大きい場合を×としている。

利用者が求める要素の背景には地域性があることから、佐川町のセンター2ヶ所は各ニーズに合った役割を果たすべきだ。とかのであれば集う場所の提供、ひまわりであれば集う場所の提供と健康維持である。ニーズに沿ったサービス提供を行うことで、センターを利用する高齢者の方々の幸せにつながると考察する。また性別や年齢に制限は無いセンターだが、インタビューを通し、女性ばかりで来づらいと感じている男性も少なからずいることが分かった。女性利用者のみならず、男性利用者也集いやすい空間作りが必要である。

## 11.2 今後のセンターの機能設計

3つの変数でみたとき、変数の値によって求める要素に違いが出る。各変数がどういった機能を求めることにつながるのか、変数と機能の関係性をまとめたものが右図である。

図表 11-1 施設マネジメント(筆者作成)



[補足]②独居率が低い場合にも社会とのつながりを求める理由としては、家族と同居している人は家族とのつながりしか持っていないと考えられるからである。

結論として、図 11-1 の3つの変数を基に施設マネジメントを考察することで、利用者の求めるニーズを推測できる。しかし今回、先行研究の「つながり」「健康維持」「自己実現」といった要素を参考に変数と機能の関係性を分類したため、必ずしも他の研究においても当てはまるとは限らないことに注意したい。

## 1 2. あとがき

本研究では3つの施設の比較から、高齢者ニーズの背景には地域性があると考察し、3つの変数の値によってそのニーズが変わることを明らかにした。しかし、インタビューをした利用者は計36名で精度が高いとはいえない。今後の研究ではより精度を高めるため、インタビュー数を増やすとともに佐川町以外の高知県内の「あったかふれあいセンター」も比較することが重要といえる。

また、インタビューした利用者の年齢層から高齢者ニーズに目を向けてきたが、そもそもセンターは子どもから大人まで年齢を問わず利用できる施設である。よって、今後は他世代のニーズにも注目していく必要がある。

## 1 3. 引用文献

[文章]

- 平井沙織 (2016.3) 『生きがい・幸せのニーズと公共施設マネジメント』1頁,6頁,7頁

[図表]

- 別冊5 - 高知県(2011) 13頁

図表Ⅱ-17 市町村別高齢化率※降順 (平成22年)

[http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/121501/files/2012041800189/2012041800189\\_www\\_pref\\_kochi\\_lg\\_jp\\_uploaded\\_attachment\\_70865.doc](http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/121501/files/2012041800189/2012041800189_www_pref_kochi_lg_jp_uploaded_attachment_70865.doc)

- こちら - チーム佐川(2016/4/1) 22頁

総人口の将来推計の変化率 (全国/高知/佐川 H22-H42)

<http://teamsakawa.jp/wp-content/themes/teamsakawa/img/sogokeikaku.pdf>

## 参考資料

- あったかふれあいセンターを取り巻く現状と事業計画書について(資料1)
- 高知県あったかふれあいセンター事業利用実績分析報告書【月報】 とかの・ひまわり